

## 新ハイキングクラブ・浦和支部 15 周年記念山行 アメリカンロッキー遠征記録

日 時:平成 21 年 6 月 20 日～28 日

場 所:アメリカ合衆国ユタ州アメリカンロッキー他国立公園

費 用:16 万円(航空運賃、レンタカー代、宿泊費、食費、その他)

メンバー:○浅田良一、小澤三枝子、加瀬 威、神尾ますみ、神山 晃、○清水順子、◎高田良一、  
村松登茂恵、カ丸忠夫 計 9 名

### 【総 括】

浦和支部創設 15 周年記念行事の一環として行われた「アメリカ遠征」は 9 日間の行程を終え、全員、無事帰国しました。この間、ブライスカニオン、アーチズ、キャニオンランズの 3 つの国立公園でのトレッキング、およびマンズ・ピーク(3,741m)等、4 つの高峰に登頂、灼熱のアメリカの大地を存分に楽しんできました。

計画の場となったアメリカ・ユタ州は、西部劇で見ると荒涼とした大地と、赤い岩山が続き、開拓時代を髣髴させました。反面、巨大なスーパーマーケット、快適なハイウェイ、安くて綺麗なホテル等、レンタカーでの旅行を快適にするためのもの、全てが揃っていました。訪れた国立公園はどこも素晴らしく、世界的な奇景を存分に楽しむ事が出来ました。レンジャーによる公園の管理は完璧で、トレッキングコースの整備は行き届いていました。一方、登山した山は、ほとんど人が入っておらず、踏跡さえまならない状況でしたが、その分ワイルドで雄大な自然を楽しむ事が出来ました。また、当初懸念されたインフルエンザの件も忘れてしまうほどで、治安の心配も殆どありませんでした。概ね天気にも恵まれ、一通りの行程をこなすことが出来、全体的には、まずまずの成果が得られたのではないかと思います。ただ、レンタカー 2 台での分乗になった為、はぐれた時の対処等、事前の打ち合わせの不備があり、反省しなければならない点もありました。ともかく、この遠征が無事遂行できたのは、参加者の機転、協力、そのご家族の理解、および新ハイ浦和支部のバックアップのお陰です。改めて、感謝する次第です。 高田 記

### 【1日目(6/20)】雨のち晴れ

予定通り AM10:30 ソルトレイク空港に到着、外は雨だった。心配していたニューインフルエンザはどこへやら。少々胸を撫で下ろす。さあ出発だ。

左ハンドルにドライバーが緊張する。2台の車は広大な牧草地帯を南へ、どこまでも、どこまでも。夕方 6 時、やっと雨が上がり東の空を見上げると大きな鮮やかな二重の虹が美しいアーチを描いてくれた。まるで我々に「ビーバーへようこそ、Welcome！」と言っている様だ。早速ハム、野菜、果物、ジュース、ビールを買い込み近くの公園でささやかながら渡米の祝杯をあげる。PM9:30 やっと日が暮れうす暗くなってきた。今夜の寝所のモーターへ、女性 4 人は素早くシャワーを浴び明日の登山に備えて早々にベッドに潜り込む。男性 5 人は 2 つのベッドにどうやって眠ったのだろうか？  
Mysterious! 小澤 記

## 【2日目(6/21)】晴

6:45 ビーバー出発＝ブライアンヘッドピーク(3,447m)登山 8:05～9:50＝シーダーブレイクス国立モニュメント見学 10:20＝ブライスカニオン国立公園トレッキング 13:20～15:40＝ビーバー泊

今日から本格的に行動、ビーバーの街から約1時間車を走らすとスキーリゾート地が見えてくる。直ぐ傍に聳えるブライアンヘッドピークに高度順化を兼ね登る。車を降りると風が強く寒い。防寒着を着て道なき所を直登、高山植物が強い風に負けじと地面、岩に張り付きながら美しい花を咲かせる。高度差 300m、50 分で頂上に着いたが風は更に強い。早々に山を下りる。

近くのシーダーブレイクス国立モニュメントを見た後有名なブライスカニオン国立公園に移動。アメリカ国内共通の国立公園入場年間パス(車一台\$80)を購入、2時間のトレッキングコースを歩く。雨(水)による成分侵食により部分的に溶けだし、残った成分が岩となって色々な形状を創造している。赤/鉄分、ピンク・紫/マンガン、白/石灰石の美しい景観が情緒を醸し出す。午前中の山と違って暑い。大人に引率された少年少女のホーストレッキングの集団に会う。アメリカだ。

トレッキング後 Cedar City で買物、ビーバーに戻った。 浅田 記



ブライアンヘッドピーク山頂



ブライスカニオン国立公園・クイーンズガーデン

## 【3日目(6/22)】快晴

ビーバー7:10＝マウント・ホーリー登山口(プファーレイク)8:34----稜線 9:37---山頂 11:45～12:40----林道入口 13:50---登山口 14:47/昼食 15:20＝サリナ泊

7 時過ぎビーバーのホテルを出発し、計画していたデラノピーク(3,709m)の登山口に向かったが道路閉鎖になっており、やむなくデラノピークの連峰の一つであるマウント・ホーリー登山に変更。ホテルから約1時間で登山口に到着した。人が余り入っていない様子で、道標はあったが倒れてしまっていて登山道は明確でない。全員で探すが見つからないため尾根に向って針葉樹林帯の中を藪こぎ開始。約1時間ほどで稜線に出てほっとする。稜線からは目的の山であるマウント・ホーリーやレイクピークが見え素晴らしい展望であった。やや下ってから本格的登りの開始、名前が判らないが可憐な高山植物が咲く草原をひたすら登る。前日にブライアンヘッドピークで高度順化したといえ苦しい登りを強いられる。1時間 15 分程でホーリーピークの前衛のピークに出る。ここは 360

度の展望で、登る予定だったデラノピークやピラミッド形のデルキャンプが見える。目的の山は目前である。一息ついた後、岩の瓦礫の尾根を登る。30分程で3,653mの山頂に出る。360度の素晴らしい展望であったが、山頂の裏側は急な谷になっていた。

山頂で昼食後記念写真を撮り下山開始、途中20m位の雪渓を渡り湿原に向って下る。林道が湿原の先にあるのは判っているが、そこまでのルートがはっきりしない。湿原を迂回しながら下るとようやく林道が見つかる。ここからの道ははっきりしており、道端の花を楽しみながら登山口へ向かい、下山開始から約2時間で登山口に到着した。日本の山と異なり、道標だけでなく登山道も明確でなく、慎重さが求められる登山だった。 力丸 記



マウントホーリー山頂から望むデルキャンプ



マウントホーリー山頂直下の草原

#### 【4日目(6/23)】快晴

6:40 サリナ出発＝アーチズ国立公園見学、ダブルアーチまでトレッキング 9:15～13:10＝モアブ＝  
キャニオンランド国立公園 15:30～20:30＝モアブ泊

サリナの街を抜けると道の両側は見渡す限りの大荒野で高さ40m位の灌木が斑に生えている、どう見ても不毛の大地である。アーチズ国立公園ビジターセンターの館内を見学後トレッキング場所まで車で移動、ここは赤茶けた大小無数の岩と風雨に削られ面白い形で残った岩塔(像:モニュメント)と砂で出来た全体が赤茶色の乾燥した公園である。所々で車を降り色々な塔を見学し雄大な自然の造形美に魅了された。その後園内をトレッキング、長い馬の背状の岩の上を歩いたり、今にも崩れ落ちそうなランドスケープアーチ(長さ92m)を見て終点のダブルアーチまで行って引き返した。

モアブの街で今夜の宿を確保、昼食後キャニオンランド国立公園に向かう。ここはグリーン川やコロラド川の大峡谷を上から眺める景勝の公園である。何百mも下の川底を垂直な絶壁の上から見下す眺めは素晴らしいが吸い込まれそうで恐ろしい。圧巻は上記2つの川の合流点が見える所で、グリーンベルトが乾燥した地肌と対比でき殊更美しかった。川底に車の通れる道が出来ているのも驚きであった。 加瀬 記



アーチズ国立公園・デビルズガーデン



デットホースポイント州立公園

### 【5日目(6/24)】快晴

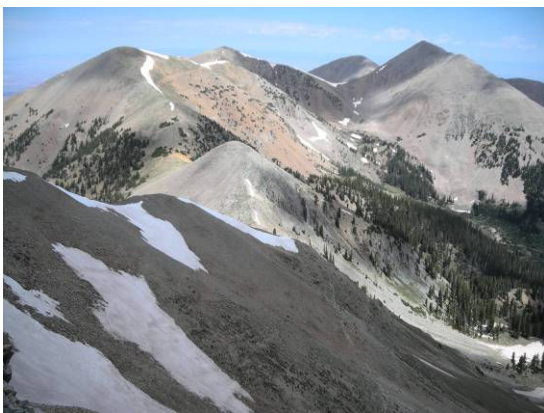
6:45 モアブ出発＝マンズピーク登山口到着 8:45-----マンズピーク頂上 11:05～11:20-

---登山口 13:00＝キャッスルキャニオン 14:30＝モアブ泊

モアブ周辺のラサール山群マウントワス(3,758m)に登る計画で登山口へ向けリゾートの町、モアブを出発。今日は連泊するので宿探しの心配がなく一日思いっきり行動できる。一般道から林道に入るが、直ぐ荒れ放題の道になり自動車を通れそうもない。マウントワスの登山口に行けそうもないことが判明したので、急遽近くのマンズピーク(3,741m)に変更、その山の登山口に向かう。30分程で到着、準備後マンズピークに向けて出発。登山口が標高 3,000m 位との事なので高度差 750m の登山。上りの 1/3 には草木があったが、上の 2/3 は草木がなく森林限界。ほとんど瓦礫で高山植物が所々に咲いているところを登る。頂上の見晴らしは最高だったが縦走を計画していた山の方で雷が鳴り出し、直ぐ下山する事になった。運よく雷雨に会わず登山口に戻った。

モアブに帰る途中キャッスルキャニオンを見学、道路脇からの眺めは西部劇に良く出てくるシーンにそっくりの巨岩が間近にあった。

夕食は中華料理を持ち帰り注文。パン食が多かったので中華料理はとても美味しくみんなの評判も良かった。 神山 記



マンズピーク山頂から続く山並み



水野女史の思いでの地・キャッスルバレー

## 【6日目(6/25)】 晴のち曇のち雨

7:00 モアブ出発＝アーチズ国立公園、デリケートアーチまでトレック 7:42～9:40＝ビジターセンター買物 10:05～25＝グリーンリバーで昼食 11:08～52＝ソルトレイクシティ泊

朝アーチズ国立公園の代表と言われるデリケートアーチを見に行く。AM8時といっても暑い！まぶしい！片道 2.4km のデリケートアーチに到着、前を歩いていた人が水筒を落としたら、あっという間にお鉢の底へ。足元は断崖絶壁なのだ。急に見震いが起きた。デリケートアーチは赤茶色の滑らかな砂岩で荘厳な感じだった。今日はソルトレイクシティへの移動日。日差しが強くなかったので途中の街の公園の芝生に円座になり昼食、自然の中での食事はピクニック気分が美味しい。ルート6でソルトレイクシティに向って走行、長い貨物列車が汽笛を鳴らしながらゆっくり進んでいく姿はアメリカ大陸の広さを感じる風景だ。ソルトレイクシティ近郊のウォルマートで買物、Atlas のアメリカ地図は\$6位で安い。 神尾 記



アーチズ国立公園・デリケートアーチ



グリーンリバーの公園でのランチ

## 【7日目(6/26)】 晴のち曇

6:45 ソルトレイクシティ出発＝アシェリー森林公園、バルト峠 7:51----山頂 9:02---

--バルト峠 10:12＝ソルトレイクシティホテル 12:54～13:49＝市内観光/モルモン教 temple・スクエア 14:28～15:20＝ユタ州議事堂 15:35～48＝ソルトレイクシティ泊

広大な盆地、ソルトレイクシティ人口 140 万人の街は車が多くホテルを出て間もなくセダン2号車を見失ってしまった。戻っても合流できる可能性は少なくアシェリー森林公園のバルト山(3,691m)をめざした。スキー場のあるリゾート地や北海道を連想する牧歌的な高原を抜け、美しい残雪の峰々を映すミラーレイクを過ぎると間もなくバルト峠(3,200m)に到着。青空に堂々と聳えるバルト山をしばし眺める。急斜面の登山道にかなりの積雪があり、アイゼン無しの登山は危険で残念ながら断念した。代わりに標高が低く残雪が少ない隣のマードックマウンテン(3,418m)に変更した。少し歩くと雪解け水の湿地に小さな白と黄色の花の群落が現れた。近づいてじっと見ると黄色の花は私が憧れ、捜していたグレッシャー・リリー(日本名:黄色いカタクリ)だ。午後は市内観光の予定。早々に下山、ホテルに戻ると2号車の人達と合流出来た。その後全員でモルモン教会・ temple スクエア、ユタ州議事堂を見学した。 村松 記



マートックマウンテン山頂



ユタ州議事堂からソルトレイク中心部を望む

### 【8日目(6/27)】快晴

いよいよ東京に帰る日、フライトの時間は 13:35、急ぐこともないがホテルにいてもやる事もなく、8:00 ホテル出発。予定通りソルトレイクシティを離陸、成田空港に 6 月 28 日夕方全員無事に帰ってきた。

アメリカンロッキー他ユタ州国立公園をめぐる旅は天候に恵まれ、どの山でも多くの高山植物のお花畑に出会い、国立公園のトレッキングを楽しむ事が出来た。

リーダー初め仲間の皆さん有難うございました。 清水 記